

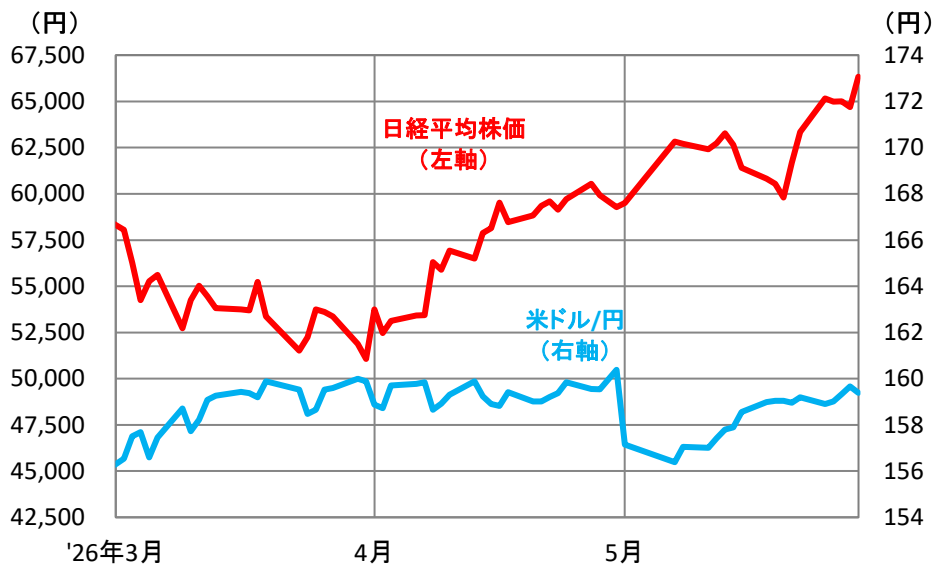
# 基礎研 レター

## 史上最高値を更新した日本株式 ～2026年5月の日本株式の振り返りと今後のポイント～

金融研究部 主任研究員 前山 裕亮  
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

- 2026年5月の日本株式は、米半導体株高や米国とイランとの戦闘終結期待が膨らんだことなどから上昇し、日経平均株価が6万6,000円台をつけ史上最高値を大きく更新した。
- TOPIXも5月末に2月末につけた史上最高値をわずかに上回ったが、AI・半導体関連銘柄の影響が大きい日経平均株価に比べると、5月の上昇は4月と同様に小幅であった。
- 日本企業の業績自体は堅調であるが、日本株式は割安感に乏しいため、中東情勢や原油価格、さらには日米の金融政策や金利の動向には引き続き注意が必要である。
- ただし、旺盛なAI投資を背景にAI・半導体関連銘柄が一段高となれば、日経平均株価は6月以降も最高値を大きく更新する展開も考えられる。

【図表】日経平均株価とドル/円レートの推移



(資料) LSEG より作成。

## 1——日経平均は2カ月連続で最高値を更新

2026年5月の日本株式を振り返ると、上旬は米半導体株高や米国とイランとの戦闘終結協議の進展期待から連休明けに上昇し、日経平均株価は7日に6万2,800円台まで急伸した。その後は利益確定売りに押される場面も見られたが、中旬に入ってから一段高となり、13日には6万3,200円台まで上昇した。しかし、14日以降は利益確定売りに加え、原油価格が高止まりする中、インフレ懸念や金利上昇が嫌気され5日続落となり、20日には6万円を下回った。

下旬は、米国とイランの戦闘終結の合意期待が膨らんだことに加え、原油価格の下落に伴い金利上昇が一服したことも追い風となり、AI・半導体関連銘柄がけん引する形で上昇に転じた。日経平均株価は22日に6万3,300円台、25日に6万5,100円台をつけ、その後は高値警戒感から売りに押される場面も見られたものの、月末には6万6,300円台まで上昇して終えた。

## 2——TOPIXも最高値を更新するも

このように、日経平均株価は5月も7,044円上昇し、史上最高値を大幅に更新した。TOPIXも2カ月連続の上昇となったが、上昇率は6%と日経平均株価の12%と比べて小幅であり、月末にようやく2月末につけた史上最高値をわずかに上回った水準にとどまっている。

東証33業種別に見ると、「サービス業」「金属製品」「電気機器」「ガラス・土石製品」で月間の上昇率が15%を超えるなど特に大きく上昇した。その一方で33業種中13業種は下落するなど、4月と同様に強弱入り混じる状況であったといえよう。

## 3——業績拡大期待と高値警戒感の綱引き

日本企業の業績は、一部で原油などの資源高や物流の混乱による悪影響が出ているものの、AI・半導体関連企業が好調なこともあり、全体で見ると堅調に推移している。今後も業績拡大に伴って株価が上昇することが期待できるだろう。

特にAI・半導体関連については旺盛なAI投資を背景に業績が上振れ、それに伴って株価がさらに急伸する展開も考えられる。その影響が大きい日経平均株価については、6月以降も史上最高値を大きく更新する可能性がある。

ただし、企業業績の拡大以上に株価の上昇が早かったこともあり、日本株式自体は割安感が乏しい水準にある。TOPIXの上値が重い背景にもこうした点があると思われ、TOPIXは上昇しても緩やかとなるだろう。

加えて高値圏にあるだけに、悪材料に反応しやすい点も留意したい。中東情勢は問題解決に向かいつつあるが、交渉の長期化や原油価格が再び上昇し高止まりした場合は、上値を抑える材料となりえる。また、5月中旬のように日米の金融政策やそれに伴う金利の上昇が嫌気されることも考えられ、それらの動向には引き続き注意が必要といえよう。

---

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。